

学びの杜通信

第37号 平成29年11月13日発行



平成29年度 第8期「とちぎの教育未来塾」が始まりました **育てます**

今年度は224名の応募をいただき、10月7日(土)に開講しました。本研修は、学生や期限付講師、若手教員の育成の場として1月までに20講座を開催します。受講者同士が共に学び合うことを通して、教職に対する情熱・使命感を高めてほしいと思います。

ここでは、第1日、第2日の研修の様子を御紹介します。

第1日 [10月7日 (土)]

1. 開講あいさつ
当センター所長が、本研修の目的や受講者への期待を伝えました。
2. オリエンテーション
3. 講話「目指す教師像～教師を語ろう～」
教師という生き方のすばらしさを確認し、各自の「理想とする教師像」に向けた具体的な目標を立てました。
4. 講話「自己有用感を高めるために」
日本の学校の特質である「集団生活の場」を生かして、自己有用感を高める手立てを班別に協議をしながら考えました。

☆受講者の声

- ・初めての未来塾。初対面の人たちとの研修で不安と緊張でいっぱいでしたが、班のメンバーとたくさん関われる内容になっており、とても和やかに語り合うことができました。
- ・班での話し合いは、自分にとって新しい考えや意見を聞くことができ、とても新鮮でした。

第2日 [10月21日 (土)]

1. 講話「子どもの学びを深めよう！～すてきな授業づくり～ (小・中)」
実際の授業をイメージし、子ども主体の授業と捉えることで、教師の思いやねらいだけでなく、子どもたちの学びに目を向けた学習指導の在り方について考えました。
2. 講話「どうする？学習指導のいろは (高・特)」
学習指導の方法論(どう教えるか)だけでなく、教師としての心構えについても考えました。
3. 演習「実践！授業づくり」
小学校2教科、中学校9教科、高等学校11教科、特別支援学校に分かれて授業づくりの演習を行いました。

☆受講者の声

- ・新学習指導要領のポイントについて、実際の授業づくりとの関連を教えてください、大変勉強になりました。
- ・現職の先生方や他大学の学生と共に授業づくりをする機会をいただけて良かったです。講師の御指導も現場での実践を踏まえた内容で、とても参考になりました。

第1日、第2日ともに受講者が互いに学び合う姿が会場にあふれていました。研修の様子は以下のホームページから御覧いただけます。今後とも「とちぎの教育未来塾」をよろしく願いいたします。



たくさんの御応募ありがとうございました！

広げます

①第 61 回日本学生科学賞栃木県展覧会

今年度は、中学の部に 5 作品、高校の部に 19 作品の応募がありました。10 月 5 日に栃木県総合教育センターで開催された審査委員会において、6 作品の最優秀賞をはじめ、優秀賞 8 作品、優良賞 6 作品が決定しました。最優秀賞に選ばれた 6 作品は、この後、東京で行われる中央審査に出品することになります。

今回、出品した全ての生徒が「自然界の奥深さ」や「探究の楽しさ」などを味わうことができたのではないかと思います。本展覧会で期待しているのは、学校の授業の中や身近な現象の中に隠れている疑問や謎を、科学的手法を用いて解明するプロセスです。来年度も、物理・化学・生物・地学・広領域のいずれかの領域で「科学する心」が伝わってくるような作品がたくさん応募されることをお待ちしております。

なお、今年度の本審査に出品された作品は、今後、当センターのホームページで 11 月下旬に公開する予定です。



【中学の部 最優秀賞（知事賞）】



【高校の部 最優秀賞（知事賞）】



→Click! <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/tenrankai/h29-kagakusho/tenrankai.htm>

②第 67 回栃木県児童生徒発明工夫展覧会

今年度は、小学校から 101 作品、中学校から 38 作品、高等学校から 38 作品、小山市少年少女発明クラブから 42 作品、合計 219 作品の応募がありました。10 月 18 日に栃木県子ども総合科学館で行われた審査の結果、金賞 10 作品、銀賞 15 作品、銅賞 20 作品が決定しました。10 月 20 日～22 日に開催された展覧会では、延べ 1000 人を超える来場者がありました。金賞を受賞された作品は、「第 76 回全日本学生児童発明くふう展」に推薦されます。

本展覧会では、機械的な動きやゴムや磁石の特性を使った仕掛けに着目した作品から、日常生活上の問題を解決しようとした実用的な作品まで、様々な視点で作られたものが応募されました。今年度は特に、不自由な思いをしている家族を何とか助けたいという思いからつくられた作品が数多く見られました。

「発明」や「ものづくり」は、「考える」という要素を含んだ一つのプロジェクトです。知識と経験を生かして、試行錯誤しながら作品をつくることは、「学びを人生や社会に生かそうとする力」につながるものです。来年度も、楽しさや驚きのある発明品の応募をお待ちしています。なお、今年度金賞を受賞した作品は、今後当センターのホームページで 11 月下旬に公開する予定です。



【金賞受賞作品「どっちが大きい？」】



【金賞受賞作品「熱中症対策箱」】

→Click! <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/tenrankai/h29-hatsumeiki/kinsyo.htm>



○この通信に関する御意見・御感想をお待ちしています。入力・送信は [こちら](#) から
・センターホームページ (TOP) は、[こちら](#) ・学びの杜通信のバックナンバーは、[こちら](#)